

[地域における活動の視点を念頭に踏まえて]

高柳町地区において「ビレッジプラン」の取り組みが始まりました

塩沢 村田功

○「ビレッジプラン」は、中山間地域の農業、集落の維持を地域それぞれが考えていこうという新潟県が進める取組の総称をいいます。県の農林水産部が所管し、柏崎地域振興局が実施、市も支援する事業です。アプローチは農業面からになりますが、農業のみならず、子育て、コミュニティ、福祉、商工、交通など地域内の経済や活動のつながりを整理、多方面の住民の方々の参加を得ながら、将来プランをつくり、実践することとしています。まとめると、「長続きするムラをつくる」事業といえます。

○令和2年度の曽地を最初に、南鯖石、別俣が取組んでおり、高柳町が4番目となります。曽地では、農業法人の生産基盤の強化と高齢者の見守り活動、南鯖石では、中山間直接支払、多面的機能支払の一部広域化、農業と福祉の連携構想（農で稼いで、福祉を充実）の議論開始、別俣では、「稼げる地域づくり」に向けた議論の活性化、「株式会社別俣未来構想」の素案作成など、それぞれの地域が強み、弱みを再認識したうえで、オリジナルな活動を展開し始めています。

○高柳町でも、11月に「田園回帰1%戦略」の著者、藤山浩さんと、座談会を開催。①人口減少が怖いのではなく、どこまで減るのかわからないことが怖さ。人口、高齢化を安定化させること、どの程度で安定化させるかの目標を持つこと。②分野横断的な「地域経営会社」が日本中ででき始めている。などのアドバイスをいただきました。

○「ビレッジプラン」を日本語に訳すと「ムラの計画」となります。ムラが繋がると「ムラムラ」となり、ビレッジプランは「ムラムラする計画」ということになります。冗談はさておき、みなさんとともに、ワクワク・ドキドキできるプランを作り、実行していきたいと思っています。



☆「まってるすけ高柳」の表題を今までの「交流観光通信」から「じょんのびの里通信」に変更させていただきました。本部会の「地域づくりを担う人材育成事業」「地域固有資源等整備・継承事業」「観光・交流事業」というテーマに則りながら、今後も幅広い情報をみなさんにお伝えしてまいりたいと思います。

(編集部)

発行 高柳コミセン「じょんのびの里」部会
乗岡元孝 大倉正大 永井基栄
小林抄吾 吉田敦子 大橋拓哉
春日悟 小野島弘
編集 NPO法人里山夢もっこ

高柳地区コミュニティ振興協議会
〒945-1595 柏崎市高柳町岡野町 1849-1
TEL & FAX : (0257) 41-2234
E-mail:c-takayanagi@kashiwazaki-cc.net